

氷見の持続可能な 定置網漁業システム



氷見の
定置網
日本農業遺産

日本農業遺産

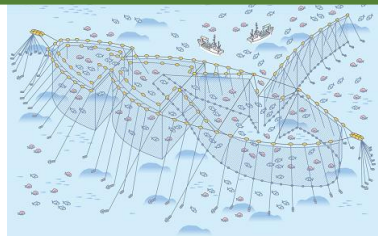
令和3年2月認定



富山県氷見地域

資源や環境にやさしい氷見の定置網漁業は、400年以上前から農林業や地域の文化、経済、信仰、祭礼などと深く関わりながら、地域の基幹産業として地域を支えています。

地域を支える定置網漁業



網の入口が常に開いており、入った魚の3割程しか取らないことから、定置網漁業は海洋資源の保護につながる環境にやさしい漁業です。



漁港から定置網が敷設された漁場までが近く、沖合で取れた魚をすぐ水氷で締めることで、魚が新鮮な状態で出荷されています。

定置網漁業システム



伝統的な祭礼



五穀豊穡や大漁、安全などを祈願するため、市内各地で獅子舞が行われています。

農林業とのつながり



山々や水田、沿岸部の「魚つき保安林」から流れ出る雨水や雪解け水は、栄養塩類を海にもたらし、豊かな漁場を育んでいます。

日本農業遺産認定による効果

農業生物多様性の保全

農業生物多様性の保全の取組み

- ・ イタセンパラの保護と保全の推進
- ・ トンボの生息数の回復

→トンボの生息数回復を目指し、地域の自然や環境への理解を深める場として、「親子トンボ教室」や環境保全活動を実施

- ・ 十二町潟オニバスの自生回復への取組み
- ・ 氷見沿岸域の生物多様性の保全に向けた活動



▲国の天然記念物「イタセンパラ」
(左:メス、右:オス)

- 乱橋池周辺での保全活動、親子トンボ教室の開催数: 7回/年 (R5) → **7回/年 (R7)**
- 十二町潟オニバス発生地でのオニバスの自生: 実績無し (R4)
→発生地で**1株自生(種子からの発芽・開花)** (R7)
- 藻場の環境保全活動の回数: 17回/年 (R5) → **21回/年 (R7)**

ランドスケープの保全

ランドスケープの保全と活用

- ・ 棚田地域の環境保全活動
- ・ 各集落の棚田保全・活用

→長坂地区で田植えや稲刈りなどの農作業を体験する「棚田オーナー事業」を、細越地区では種まきや刈取りなどの農作業を体験する「ハトムギオーナー事業」を実施

- ・ 林業を担う人材の育成・確保



▲日本の棚田百選に認定された「長坂の棚田」



▲棚田オーナーによる田植え

- 棚田地域での独自の取組件数: 2件/年 (R4) → **5件/年 (R7)**
- ハトムギオーナー数: 14人/年 (R4) → **18人/年 (R7)**
- 棚田オーナー数: 31人/年 (R4) → **41人/年 (R7)**
- 各種林業体験への参加者数: 128人/年 (R4) → **381人/年 (R7)**

次世代への継承

定置網漁業の普及と次世代への継承

- ・ 定置網漁業の市内外への普及
- ・ 定置網漁業の海外への普及
- ・ ふるさと教育を通じた農林水産業の普及啓発
- ・ 氷見地域日本農業遺産をマンガで紹介する冊子
「定置網漁業は 氷見の宝物」の配布



▲外国人実習生の受入れ



▲冊子「定置網漁業は氷見の宝物」

- 氷見市漁業文化交流センター年間入館者数: 65,586人 (R4) → **70,502人 (R7)**
- 氷見市立博物館年間入館者数: 5,306人 (R4) → **7,240人 (R7)**
- 外国人技能実習生受入人数: 6人/年 (R3) → **8人/年 (R7)**

文化、価値観

郷土愛の醸成と食文化の継承

- ・ ふるさと教育による郷土愛の醸成
- ・ 食育の推進

→保育園や小学校で、氷見産の食材を使った料理教室を実施

- ・ 食に関するイベントの開催

→「ひみ食彩まつり」、「ひみぶりフェア」、「氷見三昧」などのイベントの開催により食文化を発信



▲魚のさばき方を学ぶ料理教室



▲郷土料理「ぶり大根」

- 氷見の食文化に関する料理教室などの開催数: 11回/年 (R4) → **36回/年 (R7)**
- 食に関するイベントの開催数: 3回/年 (R4) → **3回/年 (R7)**